

IPC-TM-650 2.3.35 Cに基づいた塩化物、臭化物の測定を実施します

フラックス中のハロゲン含有量測定(Cl・Br)

詳細はこちら www.oeg.co.jp/env_meas/wboard.html

概要 IPCは電子部品の組立・製造に係る要件の標準化を目的とする事業者団体であり、その標準は世界的に認知され、多くの製品がIPC標準に基づき製造されています。
OKIエンジニアリングでは、このIPC標準の品質検査・化学試験法の**IPC-TM-650 2.3.35 C**に準拠したフラックス中のハロゲン量の測定を実施します。

特長

- ・本分析はフラックスまたはフラックスを含有するソルダーペースト等が対象です。
- ・フラックス含有はんだ等の場合は**IPC-TM-650 2.3.34**に基づき、フラックス量を求めます。
- ・硝酸銀滴定法による測定により、ハロゲン量として結果を表します。

この試験方法は、塩化物および臭化物によるフラックス中のハロゲン化物イオン含有量を測定するものです。

ハロゲン化物含有量は、フラックス中の塩素イオン(Cl)、臭素イオン(Br)含有量の合計を、塩素(Cl)含有量(%)に換算した値として報告します。

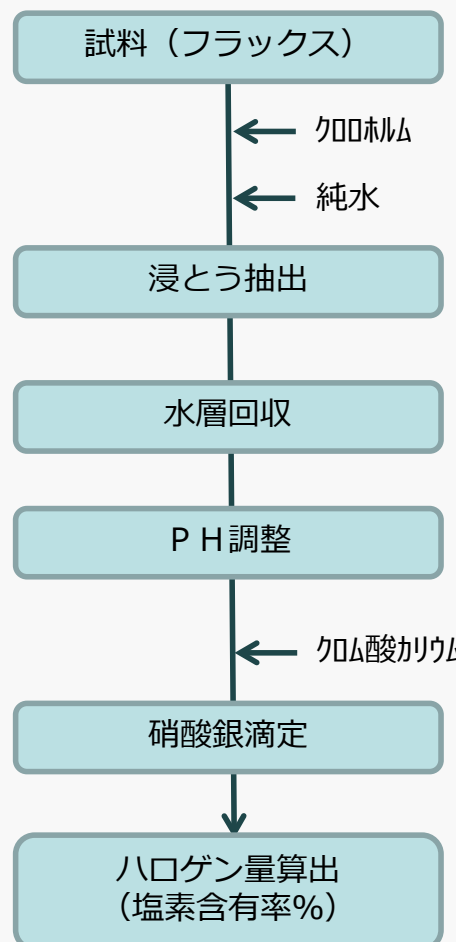
ソルダーペースト等のフラックス含有量、液状フラックスの固形分含有量等は**IPC-TM-650 2.3.34**により別途求めます。

IPC-TM-650 2.3.34C

＜フラックスの固形分含有量測定＞
質量を測定したフラックスを乾燥機で加熱し、冷却後の質量との差から固形分含有量を求める。

IPC-TM-650 2.3.34.1B

＜フラックス含有量測定＞
質量を測定したソルダーペースト等のはんだ成分を溶融し、フラックス成分と分離し後の質量からフラックス含有率を求める。



分析フローシート
IPC-TM-650 2.3.35 C